

共同研究プロジェクト  
複文構文の意味の研究

日本語教育のための複文研究  
－受身・使役・「ている」と複文－

前田直子(学習院大学)  
Naoko.Maeda@gakushuin.ac.jp

1. はじめに

- ・複文の研究
  - ・構造的な研究 … 階層論
  - ・意味的研究 … 類義表現の比較
- ・「文型」教育に生かすことができないか？
  - ・単文から複文への拡大だけでなく、文法カテゴリーの学習に複文を積極的に生かすことはできるか？
- ・調査
  - (1) 受身・使役・「ている」形のシナリオ内での使用法を単文・複文の観点から見る。
  - (2) 連用的な従属節については、どのような形式が出現しているかを見る。

2. 言語データとしてのシナリオ

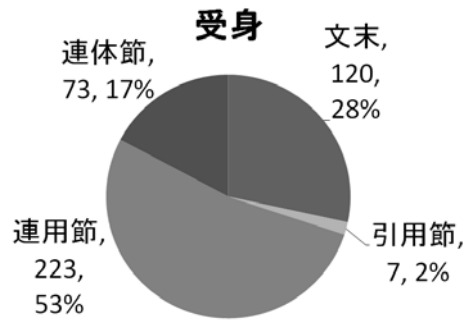
- ・本調査にふさわしいコーパスは何か？
  - 話し言葉を重視する観点 → 自然談話
  - 学習者にとってモデルとなる言語表現の集積されたコーパスとは？
- ・映画『男はつらいよ』25作のシナリオ(1-8, 10-20, 22-27)

3 調査結果と考察

3.1 受身

(1) 文末か文中か

	文末	引用節	連用節		連体節		計
			言いさし	従属節	普通名詞	形式名詞	
受身	120	7	42	181	40	33	423
			223		73		



(2) 連用節に出現した形式

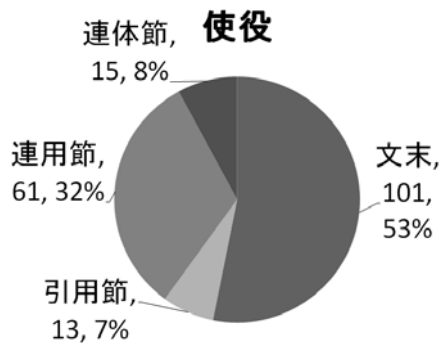
	て	ても	たら	から	ては(ちや)	と	たり	ので(んで)	たって	けど	ば	うちに	時に	のでは(んじや)	のだから	連用	ように
	102	15	14	13	11	8	6	6	5	4	4	3	3	3	2	2	2
言いさし	22	2	1	6	5	1					1				1		
従属節	80	13	13	7	6	7	6	6	5	4	3	3	3	3	1	2	2

その他、各1回出現した20形式：後で・あまり・が・くらいなら・だけに・て以来・通り・ないで・ながら・のに・ままに・もので・ように・けん(方言)・で(方言)

3.2 使役

(1) 文末か文中か

	文末	引用節	連用節		連体節		計
			言いさし	従属節	普通名詞	形式名詞	
使役	101	13	24	37	11	4	190
			61		15		



(2) 連用節に出現した形式

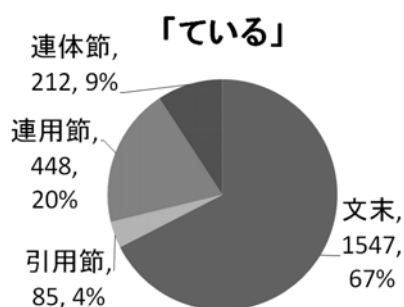
	て	から	ば	が	たら
	34	7	5	4	4
言いさし	14	4	1	2	2
従属節	20	3	4	2	2

(各1回出現した7形式：と・には・けど・ながら・のだから・ので・ように)

### 3.3 「ている」

#### (1) 文末か文中か

	文末	引用節	連用節		連体節		計
			言いさし	従属節	普通名詞	形式名詞	
ている (標準形)	213	17	25	70	50	27	413
			106		77		
てる (縮約形)	1236	66	95	200	95	38	1730
			295		133		
ております	98	2	17	30	2	0	141
			47		2		
計	1547	85	137	300	147	65	2292
			448		212		



#### (2) 連用節に出現した形式

	ている		てる		ております		小計		計
	言いさし	従属節	言いさし	従属節	言いさし	従属節	言いさし	従属節	
から	8	7	35	22	1	6	44	35	79
け(れ)ど(も)	6	8	18	44	1	2	25	54	79
と	0	15	0	22	0	2	0	39	39
たら	0	3	7	26	0	2	7	31	38
んだから	4	5	11	6	0	0	15	11	26
が	0	2	1	4	7	7	8	13	21
うちに	0	10	0	7	0	0	0	17	17
とき(に)	1	4	1	10	0	0	2	14	16
し	2	4	6	3	0	0	8	7	15
のに	2	2	5	6	0	0	7	8	15
もんだから	2	2	5	5	0	0	7	7	14
ば	0	0	3	8	0	2	3	10	13
ので	0	1	1	3	2	4	3	8	11
あいだに	0	1	0	7	0	0	0	8	8
て	0	0	0	0	4	3	4	3	7
たって	0	1	0	4	0	0	0	5	5
からといって	0	0	0	3	0	0	0	3	3
くせに	0	0	2	1	0	0	2	1	3
なら	0	0	0	3	0	0	0	3	3
からこそ	0	1	0	1	0	0	0	2	2
たり	0	1	0	1	0	0	0	2	2

最中に	0	0	0	2	0	0	0	2	2
としたら	0	0	0	2	0	0	0	2	2
さかいに(方言)	0	0	0	0	2	0	2	0	2
には	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ころ	0	1	0	0	0	0	0	1	1
ところが	0	1	0	0	0	0	0	1	1
のでは	0	1	0	0	0	0	0	1	1
とおり	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ひまに(方言)	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ようでは	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ようなもんだから	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ために	0	0	0	1	0	0	0	1	1
さかい	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ばってん(方言)	0	0	0	1	0	0	0	1	1
もんで	0	0	0	1	0	0	0	1	1
ように	0	0	0	1	0	0	0	1	1
で(方言・ので)	0	0	0	0	0	1	0	1	1
ところ	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	25	70	95	200	17	30	137	300	437

## 4 日本語教育への生かし方

### 4.1 受身

- ・連用節が半分以上を占める。文末は三分の一弱。
- ・連用節、とくに「て」節と組み合わせた受動表現をより積極的に導入すること
- ・一文において視点の一貫性を保つという受動表現の機能の指導と理解にもつながる
- ・「ても・たら・から」など既習の接続表現との組み合わせも重要
- ・逆に言えば、「て」形が十分に産出できるレベルでなければ、自然な受動表現が産出できるようにはならない、ということになるのかもしれない。

### 4.2 使役

- ・受身に比べて出現率の低い(=半分以上)文法カテゴリー
- ・受身よりも文末(=53%)において多く使用されており、基本的に単文レベルの文法カテゴリーと言える。
- ・従属節では受身の場合と同様、「て」節と組み合わせることが多いが、受身ほどではない。
- ・文末での用法の特徴を探る必要がある。
  - 使役授受表現 (cf 高橋・白川 2006)
  - 本調査では文末の4割程度が使役授受表現 (=41例)

### 4.3 「ている」

- ・三分の二が文末。3つの文法カテゴリーの中では最も単文で教えて差し支えない文法項目。
- ・むしろ、さまざまな接続表現や連体修飾表現などを教える際に、従属節・主節に積極的に取り入れるべき。
- ・連用節では、「から」「けれども」との共起率が高い。いずれも述語の終止の形につく接続表現で、主節に準じる従属節なので、導入しやすく、また「ている」形を教える際に既習であることも多い。
- ・時間表現(アスペクト)を表す形式であるため、時間に関わる接続表現との共起が多い(「と・たら・うちに・ときに・あいだに」など)。特に「と」との共起については、注目すべき。

- ・ 単文末の用法にも検討の余地がある。  
「来てたの？」 「寝てたの？」 継続相の質問の形 / 「知ってる知ってる」

## 5 おわりに

- ・ 単文から複文へと文を拡大させる過程
  - ・ 接続表現の導入 ←→
  - ・ どのような文法カテゴリーを組み合わせるべきか
  - ・ 既習の表現をより積極的に生かす方法はないか
- ・ 同様の観点（文末か文中か、単文か複文か）が有効である可能性がある文法項目
  - ・ 複合動詞・補助動詞（～てみる）
  - ・ 複合述語（～ようとする）

## 参考文献

- 市川保子(2007)「第9章 SFJ再考—文法練習を中心に—」『シリーズ言語学と言語教育 第10巻 大学における日本語教育の構築と展開 大坪一夫教授古希記念論文集』ひつじ書房, pp. 160-180
- 奥津敬一郎(1983)「何故受身か?—視点からのケース・スタディー」『国語学』132集, pp. 65-80
- 江田すみれ・小西円(2008)「3種類のコーパスを用いた3級4級文法項目の使頻度調査とその考察」『日本女子大学紀要 文学部』57, pp. 1-28
- グループ・ジャマシイ編著(1989)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 高橋恵理子・白川博之(2006)「初級レベルにおける使役構文の扱いについて」『広島大学日本語教育研究』第16号, pp25-31
- 野田尚史(1991)『はじめての人の日本語文法』くろしお出版
- 野田尚史編(2005)『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 前田直子(2009)『複文の研究—条件節および原因・理由節の記述的研究』くろしお出版
- 益岡隆志(1987)『命題の文法—日本語文法序説—』くろしお出版

シナリオ参考：山田洋次『男はつらいよ（1）—（6）』立風寅さん文庫